

科目名 単位・時間	基礎看護学 (15 単位 435 時間)		25・26 期生	1 年次～2 年次	
担当講師名	第一看護学科 全教員				
科目設定理由	<p>専門分野は、基礎分野、専門基礎分野の学習をふまえ、看護学を積み上げていく構成になっており、専門分野Ⅰの基礎看護学は専門分野Ⅱや統合分野の土台となります。</p> <p>看護とは、あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティを対象に、対象がどのような健康状態であっても、独自にまたは他と協働して行われるケアの総体です。基礎看護学概論は、看護学を履修する学生が最初に学習する専門科目であり、看護学全体の基本的内容を含みます。看護学の本質を理解すると同時に、看護学の豊かさや奥深さをイメージでき、関心が高められ、各領域の看護学への学習意欲がもてる科目としました。基本技術Ⅰでは対象把握や技術の選択に必要なフィジカルイグザミネーション、コミュニケーションの基本的な技術について学習します。また看護の基本となる記録や安全を守る技術を学びます。基本技術Ⅱは対象の願いに向けた看護を科学的根拠に基づいて実践するための基本的な技術を学びます。生活援助技術では基本的な生活の要素と健康との関わりを知り、健康の回復を促す援助技術を習得します。診療の補助技術は、疾病の回復・苦痛の緩和に必要な基礎的な技術を学びます。看護の研究的視点では看護における研究の意義と必要性を理解し看護研究の基礎を学びます。基礎看護学全体を通して、知識・技術を使うときの対象への配慮など看護職者としての倫理的行動が身につけられるように学習します。</p> <p>基礎看護学実習Ⅰでは対象の思いを知り、対象に合った日常生活の援助を行う必要性を学びます。基礎看護学実習Ⅱでは、対象の願いを捉え変化する対象の状態に応じた看護を実践する必要性を学びます。基礎看護学実習は専門分野Ⅱ、統合分野の土台となる科目です。</p>				
科目構成	科目名	基礎看護学概論	基本技術Ⅰ	基本技術Ⅱ	
	単位時間	1 単位 30 時間	2 単位 45 時間	2 単位 45 時間	
	学習範囲	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは 2. 看護倫理と主要概念 3. 看護の役割と機能 4. 看護の倫理 5. プロジェクト学習発表 	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション 2. 看護記録 3. フィジカルイグザミネーション 4. 安全・感染予防 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を展開する技術 2. 対象の願いを捉える 3. 変化する患者の状態に合わせた看護 4. 看護過程とは 	
	科目名	生活援助技術			
		環境・活動・休息	食事・排泄	清潔	安楽・呼吸・循環
	単位時間	1 単位 30 時間	1 単位 30 時間	1 単位 30 時間	1 単位 30 時間
学習範囲	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境調整の援助 2. 活動の援助 3. 休息の援助 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事の援助 2. 排泄の援助 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔の援助 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安楽の援助 2. 呼吸を整える援助 3. 循環を整える援助 	
科目構成	科目名	診療の補助技術	経過別看護	看護の研究的視点	
	単位時間	1 単位 30 時間	1 単位 15 時間	1 単位 15 時間	
	学習範囲	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査 2. 与薬 3. 経管栄養 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期の看護 2. 慢性期の看護 3. 終末期の看護 4. リハビリテーション期の看護 5. 治療を受ける患者の看護 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の意義と目的 2. 研究方法 3. 文献検索の実際 	

科目 構成	実習の ねらい	基礎看護学実習 (3単位 135時間)
		基礎看護学実習Ⅰ (1単位 45時間)
		<p>基礎看護学実習Ⅰは、生活を整えるための援助を看護師と共に行い、その過程で健康を障害された対象の思いや生活の状態を知り、対象に合った援助を考えていきます。また、対象の全体像を捉える視点や方法を理解していきましょう。</p> <p>これまで学内で基本的な生活援助の方法を学習してきましたが、この実習では、患者に合った方法を選択し実施します。患者に合った援助を行うためには患者の思いを知ることが大切です。患者とコミュニケーションをとり観察をして、患者の思いを理解できるよう努力し、患者の思いに添った援助を考えていきましょう。また、援助を行う際は、常に患者の安全・安楽・自立を考えていきます。患者の状態に合わせて安全・安楽・自立を意識した援助を考えていくのは難しいことですが、看護師の姿やグループワークを通して少しずつ視野を広げ、援助に活かせるようにしていきましょう。援助は看護師と共に行いますが、援助前・中・後の患者の反応をよく見て援助が適切であったかどうかを振り返りましょう。実践した援助を振り返るときに有効な方法はリフレクションです。日々リフレクションを行い、自己の課題を発見し、学習して次の援助につなげていきましょう。</p> <p>この実習で、皆さんは初めて患者を受け持ちます。受け持ちを承諾してくれた患者に感謝し、看護学生として責任を持って行動しましょう。これまで学習してきたプロジェクト学習やリフレクションを使い、自己の学習課題や看護学生としての課題を明確にして取り組みましょう。</p> <p>この実習を土台とし、基礎看護学実習Ⅱや各領域別実習へとつながっていきます。この実習で臨地での看護の学び方を身につけていきましょう。</p>
		基礎看護学実習Ⅱ (2単位 90時間)
<p>基礎看護学実習Ⅱは、対象と関わる中で、対象の健康障害や治療・療養生活による対象への影響を捉え、対象の願いに向けて、対象の身体的・心理的・社会的変化に合わせてながら必要な援助を考え実施していきます。</p> <p>この実習では、患者の健康障害や治療・療養生活が患者の身体面・心理面・社会面・生活行動にどのような影響を及ぼしているかを理解できるように患者と積極的にかかわっていきましょう。また、健康を障害された患者のその時々を思いを捉えると共に、患者がどのように疾患や治療と向き合い、どのように生活してきたのか、今後どう生活していきたいのかという患者の状態や背景を踏まえた患者の願いを捉えていきましょう。患者の願いを言葉だけでなく、多方面から捉えられるように患者に関心を向け、患者を捉える力を身につけていきましょう。そして、患者の願いに向けた援助を患者と共に考えていきます。患者の状況は健康レベルや治療等により日々変化していきます。実施する援助は願いを踏まえながら、日々、刻々と変化する患者の状況に対応することが求められます。身体面・心理面・社会面の変化を捉え、その時々を患者の思いに寄り添い、生活を整えるための援助を行えるよう努力しましょう。これまで学習してきたことを踏まえて、安全・安楽・自立を意識し、助言を受けながらその時々を対象の状況に合った援助を考える力を身につけていきましょう。</p> <p>この実習は領域別実習の土台となる実習です。看護学生として責任を持ち、対象の看護に必要な報告・連絡・相談・確認を主体的に行う姿勢を大切にしましょう。主体的な学習に向けてこれまで実践してきたプロジェクト学習やリフレクションを使い、自己の傾向に目を向けて課題を明確にし、解決していく力をつけていきましょう。</p>		
学習を支える 情報	<p>基礎看護学は全ての看護学の土台となる科目です。基礎的な知識や技術を習得すると共に、学習の仕方も身につけていきましょう。看護に興味を持ち、必要な学習を自ら考え自ら学習を進めるとともに他者に相談することで学びは広がり深まります。プロジェクト学習やリフレクションの意義を理解し用いながら主体的に学習を進めていきましょう。基礎看護学を学ぶ時、自分の生活を振り返ることで、人間が安全・安楽にその人らしく生活するためにはどうしたらよいかを考える足掛かりになります。学習方法としてグループワークを多く取り入れます。グループワークでは自己の考えを述べると共に他者の考えを受け入れることが必要となります。グループワークを通して学びを深めると共に他者との関わり方も学びましょう。看護技術はトレーニングにより上達します。主体的に技術練習を行い、他者の助言も受けながら技術の上達を目指しましょう。実習では患者を受け持ち、患者に必要な援助を行います。学内の学習では、常に患者の立場に立って考え、患者の思いを尊重する姿勢を持ちましょう。</p>	

科目名 単位・時間	基礎看護学概論（1単位 30時間）		26期生	1年次・前期～後期		
担当講師名	平野 ゆき子 [看護師]					
科目目標	看護の基本となる概念について理解できる。 ナイチンゲールのまなざしで大切な人の健康を守る提案ができる。					
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考	
	1 2	看護とは	1. 「ナイチンゲールプロジェクト」について 2. 看護の定義 3. ケアリング 4. 看護の本質 5. 看護の起源・看護制度及び看護教育の歴史的変遷	平野	講義	
	3 4 5 6	看護理論と主要概念	1. F. ナイチンゲール「看護覚え書」 2. 人間・環境・生活・健康・看護の概念 ヘンダーソン・オレム・ペプロウ トラベルビー・キング・ロジャーズ ワトソン・ベナー・ロイ	平野	講義 演習	
	7 8 9 10	看護の役割と機能	1. 看護職者と保健医療福祉チーム 2. 法律から見た看護活動・看護業務 3. 病院における看護活動の実際 4. 多職種連携演習	平野	講義 病院見学	
	11 12 13	看護の倫理	1. 看護と倫理 2. 職業倫理としての看護倫理	平野	講義 演習	
	14	プロジェクト学習 発表	「ナイチンゲールプロジェクト」発表	平野	発表	
	15		テスト（筆記）	平野		
	使用テキスト	看護学概論（医学書院）				
使用教材	プロジェクター・書画カメラ					
学習を支える情報	<p>1. 「ナイチンゲールプロジェクト」では、大切な人の健康を守る方法を考えます。 授業内容を活かしながら考えていきましょう。</p> <p>2. 看護の役割を理解する目的で病院に見学に行きます。 看護師と患者のかかわりや患者が過ごす環境を見学し学びを深めましょう。</p> <p><参考資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護の基本となるもの（日本看護協会）・看護覚え書（現代社） ・実践に生かす看護理論19（医学芸術社）・看護者の基本責務 					
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標・評価項目			出席	試験	パフォーマンス課題
	1. 大切な人の健康を守るプロジェクト					30
	2. 病院見学：病院や看護師の役割、患者の生活を知る			10		
	3. 看護の基本となる概念が理解できる				60	
評価項目の試験・技術試験・パフォーマンス課題、それぞれが60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。						

科目名 単位・時間	基本技術 I (2単位 45時間)		26期生	1年次・前期～後期	
担当講師名	市原 蔦美 [看護師]、藤原 芳美 [看護師]、宍戸 薫 [看護師]、柳澤 いずみ [看護師]				
科目目標	1. 基本的なコミュニケーション・記録・フィジカルイグザミネーションの技術を取得し、対象を把握する意義を理解できる。 2. 基本的な感染予防の技術を習得し、対象の安全を守る意義と看護の役割を理解できる。				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考
	1 2 3	コミュニケーション	1. 看護場面でのコミュニケーション 2. コミュニケーションの構成要素・成立過程 3. 看護師に必要なコミュニケーション能力とは 4. 患者―看護師関係構築のためのコミュニケーション技術 5. 看護カウンセリングの基礎 (傾聴・共感・受容・承認) 6. コミュニケーション障害のある患者への対応	藤原	講義 グループ ワーク (発表)
	4 5 6	記録・報告	1. 看護記録の法的位置づけ 2. 看護記録の目的・機能・管理 3. 看護記録の構成 4. 記録の実際 5. 報告の実際	市原	講義 グループ ワーク
	7	ヘルスアセスメント	1. ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションとは 2. 健康歴の把握	宍戸	講義
	8	フィジカルイグザミネーションの基本	1. 基本技術 1) 問診 2) 視診 3) 触診 4) 打診 5) 聴診 2. 身体計測 1) 身長計測 2) 体重計測 3) 腹囲計測 4) 皮下脂肪の測定	宍戸	講義・演習 (基礎実習室)
	9 1 13	バイタルサインの測定	1. バイタルサインとは 2. バイタルサインの観察とアセスメント 1) 体温 2) 脈拍 3) 呼吸 4) 血圧 3. バイタルサインに影響する因子 4. 患者に合ったバイタルサイン測定の方法を考える。	宍戸	講義・演習 (基礎実習室)
	14	バイタルサイン測定の意義と看護の役割	1. バイタルサイン測定の意義 2. 看護の役割	宍戸	グループワーク
	15	安全	1. 医療安全とは 2. 安全を阻害する因子	柳澤	講義
	16 17	感染予防の基礎	1. 感染予防の基礎知識 2. 標準予防策 3. 洗浄・消毒・滅菌	柳澤	講義・演習 (基礎実習室)
	18 1 21	感染予防の技術	1. 標準予防策の実際 2. 感染性廃棄物の取り扱い 3. 感染経路別予防策 4. 無菌操作	柳澤	講義・演習 (基礎実習室)
	22	安全の意義と看護の役割	1. 安全の意義 2. 看護の役割	柳澤	グループワーク
	23		試験・技術試験	各担当	

使用テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院）		
使用教材	書画カメラ プロジェクター ホワイトボード 人体模型・シミュレーター		
学習を支える情報	<p>1. 基本技術Ⅰは全ての看護に共通する技術の基礎を学びます。常に患者の立場を考えながら根拠を伴った確かな技術を習得しましょう。</p> <p>2. コミュニケーション：看護を行うために基盤となる技術です。人間関係論・心理学での学びを想起し学習に活かしましょう。</p> <p>3. 記録：対象を理解する方法の一つとして、また医療チームの一員として必要となる大切な技術です。</p> <p>4. フィジカルイグザミネーション：バイタルサイン測定には五感を使うこと、血圧計や聴診器等の取り扱いに慣れることが大切ですが、トレーニングすることで必ず上達します。自主的にトレーニングを重ね、技術の上達を目指しましょう。解剖生理の知識が必要となります。授業の復習をすると共に疑問点は主体的に学習しましょう。</p> <p>5. 安全・感染予防：これから学ぶ技術の全てにおいて、安全・感染予防を考慮していきます。根拠と共に確かな技術を習得しましょう。</p> <p>6. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。</p> <p><参考資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護がみえる1 基礎看護技術（メディックメディア） ・看護がみえる3 フィジカルアセスメント（メディックメディア） 		
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標	技術試験	試験
	1. 看護における基本的なコミュニケーションの必要性を理解できる。		10
	2. 記録の目的や機能・構成を理解できる。		10
	3. フィジカルイグザミネーションの意義と看護の役割を理解できる。		25
	4. 対象の安全を守る意義と看護の役割を理解できる。		25
	5. 安全・安楽・正確にバイタルサインを測定できる。	30	
<p>評価項目の試験・技術試験、それぞれが60%以上の評価をとることが単位習得の条件となる技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。</p> <p>技術試験については成績評価並びに単位の認定に関する規定に則り実施する。</p>			

科目名 単位・時間	基本技術Ⅱ (2単位 45時間)	25期生	2年次・前期		
担当講師名	市原 篤美 [看護師]、平野 ゆき子 [看護師]				
科目目標	1. 健康障害や治療・療養生活が患者に及ぼす影響と患者の願いを捉える意味が理解できる。 2. 日々変化する患者の状況に合わせた看護を考える方法が理解できる。				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考
	1	プロジェクト学習 について	パフォーマンス課題 ビジョン・ゴールの設定	市原 平野	講義・演習
	2 1 20	患者の状況に合わ せた看護を考える	1. 患者の願いを捉える。 2. 日々変化する患者の状況に合わせた看護を考 える。		講義・演習
	21 22	看護過程とは	1. 看護過程とは 2. 看護過程の構造		講義 グループ ワーク
23		試験			
使用テキスト	基礎看護技術Ⅰ (医学書院)				
使用教材	書画カメラ ホワイトボード シミュレーターモデル				
学習を支え る情報	1. パフォーマンス課題はシミュレーション学習を取り入れ、実際の患者とのかかわりをリアルに体験します。変化する患者の思いや生活の状況、症状を理解できるよう、実習や学内での学習の体験を想起し、主体的に学びましょう。 2. これまで学習してきた基礎科目・専門基礎科目・基礎看護学概論・基本技術Ⅰ・生活援助技術・経過別看護・その他の専門科目の知識を活かし、統合して看護を考えていきましょう。 3. この科目は基礎看護学実習Ⅱや各領域の看護を学んでいく基礎となる科目です。自ら学習課題を発見し課題を解決する力を付けることがこれからの学習に繋がっていきます。ポートフォリオやリフレクションノートを活用し学習の仕方を身につけましょう。 4. フィジカルアセスメントや生活援助技術で習得した技術を実施します。技術を復習し積極的に演習に臨みましょう。 5. グループワーク・個人ワークで演習を進めます。グループでの意見交換が思考の広がりや深まりに大切です。グループで協力し互いに高め合って学習を進めていきましょう。 <参考資料> ・緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図：第3版 (医学書院) 他 看護理論・薬剤・検査・疾患・症状に関する図書				
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標・評価項目		試験	パフォーマ ンス課題	
	1. 事例患者の看護について思考過程を活用して理解し実施する。			40	
	2. 看護過程の意義と構成要素が理解できる。		60		
演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが、演習参加の条件となる。 パフォーマンス課題の評価は、ルーブリックにより総合的に行う。 パフォーマンス課題は評価日の指定された時間まで提出な臥位場合、評価対象とならない。 評価項目の試験・技術試験、パフォーマンス課題それぞれが60%以上の評価をとることが単位習得の条件となる					

科目名 単位・時間	生活援助技術 「環境」「活動・休息」 (1単位 30時間)		26期生	1年次・前期		
担当講師名	市原 篤美 [看護師]、伊藤 知恵 [看護師]					
科目目標	1. 患者にとって安全で快適な生活環境を整えるための援助方法を習得し、環境調整の意義と看護の役割を理解できる。 2. 患者にとって安全・安楽・自立に向けた活動・休息の援助方法を習得し、活動・休息の意義と看護の役割を理解できる。					
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考	
	1	病室の生活環境	1. 病室の生活環境 2. 病床の種類	伊藤	講義 グループワーク	
	2 3 4 5 6	病室の環境を整える技術	1. ベッドメイキング 2. シーツ交換 3. 環境整備		講義・演習 グループワーク (基礎実習室)	
	7	環境調整の意義と看護の役割	1. 環境調整の意義 2. 看護の役割		講義 グループワーク	
	8 9	人間の自然な動きと基本動作	1. 姿勢と体位 2. 自然な動きとボディメカニクス 3. 活動と運動のアセスメント		市原	講義・演習 グループワーク (基礎実習室)
	10 11 12	活動と運動を促す援助	1. 体位変換 2. 移動・移送の援助 (車いす・ストレッチャー・歩行介助)			講義・演習 グループワーク (基礎実習室)
	13	休息の援助	1. 睡眠・休息の援助			講義・演習 (基礎実習室)
	14	活動の援助の意義と看護の役割	1. 活動・休息の意義 2. 看護の役割			グループワーク 講義
	15		試験・技術試験	担当 教員		
	使用テキスト	基礎看護技術Ⅱ (医学書院)				
	使用教材	プロジェクター ・ 書画カメラ ホワイトボード				
	学習を支える情報	1. 自己の生活を振り返り、人間にとっての環境調整や活動・休息の意義を考えましょう。 2. 環境調整の援助は病院見学を通して学んだことを含め、安全・快適性の視点から考えましょう。 3. 活動の援助は患者の身体に触れる機会の多い援助です。患者体験を通して患者への配慮を考え、安全・安楽・自立の視点から援助の方法を考えましょう。 4. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。 <参考資料> ・看護がみえる1 基礎看護技術 (メディックメディア)				
	到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標			技術試験	試験
		1. 環境を調整する意義と看護の役割が理解できる。				30
		2. 活動・休息の意義と看護の役割を理解できる。				30
3. 安全・安楽に病床を整えることができる。			20			
4. 安全・安楽・自立を考慮した移動・移送の援助ができる。			20			
評価項目の試験・技術試験・パフォーマンス課題、それぞれが60%以上の評価をとることが単位習得の条件となる 技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。 技術試験については成績評価並びに単位の認定に関する規定に則り実施する。						

科目名 単位・時間	生活援助技術 「食事」「排泄」 (1単位 30時間)		26期生	1年次・前期～後期		
担当講師名	友田 枝梨子[看護師・保健師]					
科目目標	1. 患者が安全で楽しく食事をするための援助方法を習得し、食事の意義と看護の役割を理解できる。 2. 患者にとって安全・安楽な排泄の援助方法を習得し、排泄の意義と看護の役割を理解できる。					
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考	
	1	食事援助の基礎知識	1. 栄養状態、食欲 2. 摂食・嚥下のメカニズム 3. 医療機関で提供される食事	友田	講義	
	2	食事援助の実際	1. 食事援助の体験		演習 グループワーク	
	3	食事介助	1. 事例患者の食事援助の実際 患者に合った食事援助の方法を考える。		演習 (基礎実習室)	
	4				講義・演習 (基礎実習室)	
	5	非経口的栄養摂取の基礎知識と援助の実際	1. 非経口的栄養摂取における援助の実際 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法 2. 経管栄養法の実際		友田	講義・演習 (基礎実習室)
	6	食事の意義と看護の役割	1. 食事の意義 2. 看護の役割			講義 グループワーク
	7	自然排尿・自然排便への援助	1. 排泄行動が制限されている人 2. 排泄用具の種類と特徴 ポータブルトイレ、尿器、便器、オムツ 3. トイレにおける排泄介助 4. ベッド上排泄の援助	講義・演習 (基礎実習室)		
	8	排便障害時の援助	1. 排便障害の種類 2. 排便障害時の看護	講義		
	9	浣腸	1. 浣腸の原理・原則 2. グリセリン浣腸施行時の看護 3. 浣腸の実際	演習 (基礎実習室)		
	10			講義		
	11	排尿障害時の援助	1. 排尿障害の種類 2. 排尿障害時の看護 3. 導尿の原理・原則 4. 一時的導尿施行時の看護	演習 (基礎実習室)		
	12	導尿	1. 一時的導尿の実際 2. 持続的導尿時の看護	講義 グループワーク		
	13			演習 (基礎実習室)		
	14	排泄の意義と看護の役割	1. 排泄の意義 2. 看護の役割	講義 グループワーク		
15		試験	各担当			
使用テキスト	基礎看護技術Ⅱ (医学書院)					
使用教材	プロジェクター ホワイトボード 書画カメラ					
学習を支える情報	1. これまで習得した活動・安楽・感染予防の技術を活かしましょう。 2. 排泄の援助はプライバシーに配慮することが大切です。体験を通して患者の気持ちを考え患者の羞恥心に配慮した援助を考えましょう。 3. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。 <参考資料> ・看護がみえる1 基礎看護技術 (メディックメディア)					
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標					試験
	1. 食事の意義・基礎知識を理解できる。				40	
	2. 対象に応じた食事介助の方法を考えられる。					
	3. 非経口的栄養摂取の援助を知る。					
	4. 人間にとっての排泄の意義を理解できる。				60	
	5. 対象に応じた排泄の援助方法を考えられる。					
6. 排泄の援助を受ける対象の気持ちを考えられる。						
演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが、演習参加の条件である。 技術を伴う演習は、全て出席することで試験を受けられる。						

科目名 単位・時間	生活援助技術 清潔 (1単位 30時間)		26期生	1年次・後期	
担当講師名	穴戸 薫 [看護師]				
科目目標	患者にとって安全で心地よく清潔を保つために必要な援助方法を習得し、清潔・衣生活の意義と看護の役割を理解できる。				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考
	1	清潔・衣生活	1. 人間の清潔行為・衣生活 2. パフォーマンス課題 3. ビジョン・ゴール	穴戸	講義
	2 7	対象に合わせた清潔 援助	1. 心地よい清潔 2. 足浴 3. 安全で心地よい清拭 4. 安全で安楽な寝衣交換 5. 対象に合わせた清拭・寝衣交換		講義・演習 グループワーク (基礎実習室)
	8	口腔ケア	臥床患者の口腔ケア		講義・演習 (基礎実習室)
	9 10	洗髪	対象に合わせた洗髪		講義・演習 (基礎実習室)
	11	身体各部位の清潔援助の方法	陰部洗浄		講義・演習 (基礎実習室)
	12 13	ADL 拡大に伴う清潔の 援助	ADL に合わせた清拭・シャワー浴・足浴・洗髪の方法を考える。		講義・演習 (基礎実習室) (在宅実習室)
	14	清潔の意義・衣生活の 意義と看護の役割	1. 清潔・衣生活の意義 2. 看護の役割		グループワーク
15		試験・技術試験			
使用テキスト	基礎看護技術 I・II (医学書院)				
使用教材	プロジェクター ホワイトボード 書画カメラ				
学習を支える 情報	<p>1. パフォーマンス課題は、演習で体験する患者役を通して感じたことを活かし、患者にとってより良い方法を考えていきましょう。また、グループで意見交換し、自己の考えを広げましょう。</p> <p>2. これまで習得した環境・活動・安楽の技術や感染予防の技術を活かしましょう。</p> <p>3. 基礎科目、専門基礎科目で学んだことを、患者の身体面・精神面・社会面の理解に活かしましょう。</p> <p>4. 肌の露出の機会が多いため、羞恥心や保温への配慮が欠かせません。安全・安楽への留意点と共に、心地良い快の援助となる技術を目指しましょう。</p> <p>5. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。</p> <p><参考資料> ・看護がみえる 1 基礎看護技術 (メディアックメディア)</p>				
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標・評価項目		技術試験	試験	パフォーマンス課題
	1. 事例の患者を通して、快適な清潔援助について考える				20
	2. 清潔・衣生活の意義が理解できる		40	40	
	3. 清潔を保つための援助方法が理解できる				
	4. 安全で心地よい清拭・寝衣交換の援助方法が習得できる		40		
<p>演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみを整えることが、演習参加の条件である。</p> <p>評価項目の試験・技術試験、パフォーマンス課題、それぞれが60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。</p> <p>技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。</p> <p>技術試験については成績評価並びに単位の認定に関する規程に則り実施する。</p>					

科目名 単位・時間	生活援助技術 「安楽」「呼吸・循環を整える援助」(1単位 30時間)		26期生	1年次・前期～後期	
担当講師名	山中 真弓 [看護師・助産師]、高坂 香苗 [看護師]				
科目目標	1. 患者が安楽に過ごすための援助方法を習得し、安楽の意義と看護の役割を理解できる。 2. 患者の呼吸・循環を整える援助方法を習得し、看護の役割を理解できる。				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考
	1 2 3 4 5	安楽確保の技術	1. ポジショニング 2. リラクゼーション	山中	講義・演習 グループワーク (基礎実習室)
	6	安楽確保の意義と 看護の役割	1. 安楽の意義 2. 看護の役割		講義 グループワーク
	7 8 9	吸入療法	1. 吸入療法とは 2. 酸素吸入療法 3. 気管内加湿法	高坂	講義・演習 (基礎実習室)
	10 11 12	吸引	1. 吸引とは 2. 口腔・鼻腔吸引		講義・演習 (基礎実習室)
	13	吸入・吸引療法と看護の 役割	吸入・吸引療法における看護の役割		講義 グループワーク
	14	循環を整える援助	1. 体温調節 2. 覆法		講義
	15		試験	各担当 教員	
	使用テキスト	基礎看護技術Ⅱ (医学書院)			
使用教材	プロジェクター ホワイトボード 書画カメラ				
学習を支える 情報	1. 呼吸・循環の解剖生理を復習し、技術に活かしましょう。 2. 吸入・吸引は清潔・汚染の区別が重要です。感染予防の技術を活かして演習に臨みましょう。 3. 吸引は患者の苦痛を伴うことがあるため、安全であると同時に安楽に技術を提供することが大切です。安楽に援助を行うための工夫も考えましょう。 4. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。 <参考資料> ・看護がみえる1 基礎看護技術 (メディックメディア) ・看護がみえる2 臨床看護技術 (メディックメディア)				
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標				試験
	1. 安楽確保の援助の意義と看護の役割が理解できる。				30
	2. 呼吸・循環を整える援助の意義が理解できる。				70
演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが、演習参加の条件である。 技術を伴う演習は、全て出席することで試験を受けられる。					

科目名 単位・時間	診療の補助技術 (1 単位 30 時間)		25 期生	2 年次・前期～後期	
担当講師名	藤原 芳美 [看護師]、柳澤 いずみ [看護師]				
科目目標	安全・安楽な診療の補助技術を習得し、看護の役割を理解できる。				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考
	1 2	診察・検査・処置 と看護	1. 検査の目的 2. 検査の方法と種類 3. 検体の取扱い 4. 診察・検査・処置の介助 5. 診察・検査・処置時の看護師の役割	藤原	講義 グループワーク
	3 4	血液検査と看護	1. 血液検査の目的 2. 血液検査の影響を与える因子 3. 静脈血採血の種類 4. 静脈血採血の実際		講義・演習 (基礎実習室)
	5	与薬と看護	1. 薬物療法とは 2. 与薬に伴う基礎知識 3. 与薬の種類	柳澤	講義
	6		1. 経口与薬 2. 点眼・点鼻・経皮与薬		講義
	7		1. 直腸内与薬 1) 準備 2) 援助の実際		講義・演習 (基礎実習室)
	8 9 10 11	注射法と看護	1. 注射法とは 1) 目的・適応 2) 法的背景 3) 種類 2. 筋肉内注射・皮下注射 1) 準備 2) 援助の実際 3. 静脈内注射 1) 準備 2) 援助の実際		講義・演習 (基礎実習室)
	12	1. 輸血療法 1) 種類と取り扱い 2) 管理方法 3) 副作用の観察	講義		
	13	経管栄養法の看護	1. 目的 2. 胃管挿入の援助の実際	講義・演習	
	14	薬物療法における 看護師の役割	1. 薬物療法における看護師の役割と原則	講義 グループワーク	
	15		試験		
	使用テキスト	基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 臨床看護総論 (医学書院) 臨床薬理 (医学書院)			
	使用教材	プロジェクター 書画カメラ ホワイトボード			
	学習を支える 情報	<p>1. 基礎科目、専門基礎科目で学んだことを活かしましょう。与薬では薬理学での学びが必要となります。</p> <p>2. これまで習得した感染予防の技術を活かしましょう。</p> <p>3. 診療の補助技術は患者の苦痛を伴うことがあるため、安全であると同時に安楽に技術を提供することが大切です。安楽に援助を行うための工夫も考えましょう。</p> <p><参考資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護がみえる1 基礎看護技術 (メディックメディア) ・看護がみえる2 臨床看護技術 (メディックメディア) 			
	到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標			試験
	1. 検査を受ける患者の看護が理解できる。			30	
	2. 与薬に必要な基礎的知識を理解し与薬の種類に応じた看護が理解できる。			60	
	3. 経管栄養法を受ける患者の看護が理解できる。			10	
	演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが、演習参加の条件である。技術を伴う演習は、全て出席することで試験を受けられる。				

科目名 単位・時間	経過別看護 (1単位 15時間)		26期生	1年次・後期	
担当講師名	山中 真弓 [看護師・助産師]				
科目目標	健康状態の経過に応じた看護の役割を理解できる。				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考
	1 5	経過別看護とは	1. 健康状態の経過のとらえ方 1) 急性期 2) 慢性期 3) 回復期・リハビリテーション期 4) 終末期	山中	講義 グループワーク
		急性期にある患者の看護	1. 急性期とは 2. 急性期にある患者の特徴 3. 急性期にある患者の家族の特徴 4. 急性期にある看護の基本		
		回復期・リハビリテーション期にある患者の看護	1. 回復期・リハビリテーション期とは 2. 回復期にある患者の特徴 3. 回復期にある患者の家族の特徴 4. 回復期の患者の看護の基本		
		慢性期にある患者の看護	1. 慢性期とは 2. 慢性期にある患者の特徴 3. 慢性期にある患者の家族の特徴 4. 慢性期にある看護の基本		
		終末期にある患者の看護	1. 終末期とは 2. 終末期にある患者の特徴 3. 終末期にある患者の家族の特徴 4. 終末期にある看護の基本		
	6 7	治療を受ける患者への看護	1. 化学療法を受ける患者の看護 2. 放射線療法を受ける患者の看護 3. 手術療法を受ける患者の看護		
	8		試験	担当 教員	
使用テキスト	臨床看護総論・リハビリテーション看護 (医学書院) 成人看護学概論・慢性期看護 (南江堂)				
使用教材	書画カメラ プロジェクター DVD「臨終時のケア」				
学習を支える情報	1. 基礎科目や基礎看護学概論で学習した「健康」を想起しましょう。 2. ここで学ぶ看護は、これから学習する各領域別の看護に繋がります。特に実習で必要となる知識です。事例をイメージし、患者・家族を対象として捉えて看護を考えていきましょう。 <参考資料> ・看護がみえる2 臨床看護技術 (メディックメディア)				
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標			試験	レポート
	1. 健康状態に応じた看護の役割が理解できる。			80	20
	2. 治療を受ける患者の看護が理解できる。				

科目名 単位・時間	看護の研究的視点 (1 単位 15 時間)		25 期生	2 年次・後期	
担当講師名	原田 静香 [看護師・保健師・非常勤講師]、仲里 良子 [看護師・保健師・非常勤講師]				
科目設定理由	看護研究とは何かを理解し、事例研究をまとめ上げることで看護研究が実施できる基盤を身につけることを目的とする。				
科目目標	看護研究とは何かを講義と事例研究をまとめ上げることを通して理解することができる				
授業内容 授業担当者	次	単元	内容	担当者	備考
	1～2	看護研究のプロセスと看護学研究法	看護研究とは 研究のプロセス	原田	講義
			文献検索と文献検索方法の実際		演習 課題学習
	3～4	量的研究とは	量的研究とは 量的研究の意義と研究デザイン 量的研究の実際	原田	講義
	5～6	質的研究とは	質的研究とは 質的研究の意義と研究デザイン 質的研究の実際	仲里	講義
	7～8	論文クリティーク	論文のクリティークとは① クリティークの視点 グループ討議	仲里	講義 グループ ワーク
論文のクリティーク② グループ発表			講義		
使用テキスト	松本孚 他：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 (照林社)				
使用教材	パソコンとプロジェクターの準備 (毎回)、レジュメ配布				
学習を支える情報	これからの看護研究—基礎と応用— 小笠原知枝・松木光子 編 NOUVELLE HIROKAWA 文献検索は、PC室、図書室で演習します。				
到達目標 評価方法 評価割合 (%)	到達目標			レポート	提出・ 発表
	1. 看護研究の特徴と種類を学び、研究を展開するための基本的なプロセスを理解する。			20	
	2. 看護学の論文のクリティークを通し、課題を具体化し、看護活動への研究的アプローチ方法を理解する。			20	20
	3. 事例研究を行うことにより、自己の持つ目的、動向、課題を研究的な視点から理解する。			20	20

科目名 単位・時間	基礎看護学実習 I (1単位 45時間)	26期生	1年次・1月	
担当講師名	市原 薫美 [看護師] 他			
科目目標	健康を障害された対象の思いや状態に合わせた援助の実践を通して、生活を整える看護の必要性と看護師の役割を理解する。			
実習場所 スケジュール 実習内容	【実習場所】 東京慈恵会医科大学附属柏病院			
	【実習スケジュール】			
	日程	内容	方法	臨地/学内
	1	全体オリエンテーション	・実習に向けた心構えや臨地実習を効果的に行うための準備をする。	学内
	2	実習オリエンテーション ビジョン・ゴールの設定		
	3	フロアオリエンテーション		
	4 8	病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定 看護実践	・患者を1名受け持ち実習する。 ・患者と関係構築を図りながら患者の思いを捉える。そして、必要な援助を考え患者に合った方法で実践する。 ・カンファレンス（日々・最終）を通して学びを共有しその後の看護実践に活かす。	臨地
9	再構築	・実習で得た看護の経験を振り返り、グループワークによって知の共有と看護の理解を深める。 ・自己の成長を俯瞰するとともに実習で獲得した価値ある知と課題を明確する。	学内	
10				
11	対話			
使用テキスト	・基礎看護技術 I II (医学書院) ・臨床看護総論 (医学書院) ・解剖生理学 (医学書院) ・成人看護学 (医学書院)			
学習を支える情報	1. 実習要綱を熟読し、自らのビジョン・ゴールに向けて具体的に戦略を立てて実習に臨みましょう。 2. これまで学習してきた基本技術 I ・生活援助技術を復習しておくこと実習に活かします。フィジカルアセスメント技術・バイタルサインの測定や日常生活の援助技術は学内で十分練習しておきましょう。 3. 初めて患者を受け持ち、実習指導者と共に援助を行います。看護への関心を持つと共に看護学生として責任を持った行動をとりましょう。 4. 実習の学びは臨地での実習終了後のまとめで深まります。学びを深め、今後の学習につなげていきましょう。 <参考資料> ・看護がみえる 1 基礎看護技術 (メディックメディア) ・看護がみえる 2 臨床看護技術 (メディックメディア) ・看護がみえる 3 フィジカルアセスメント (メディックメディア)			
評価概要	1. 成績評価を受ける資格は、所定時間数の6分の5以上の出席となります。 2. 実習評価は、実習要綱のルーブリックにより総合的に行います。 3. 提出物の提出期限が守れない場合は、評価対象とならない。			

科目名 単位・時間	基礎看護学実習Ⅱ (2単位 90時間)	25期生	2年次・7月
担当講師名	市原 篤美 [看護師] 他		
科目目標	健康を障害された対象の願いを捉え、刻々と変化する対象の状況に合わせ願いに向けた看護の必要性を理解する。		
実習場所 スケジュール 実習内容	【実習場所】 東京慈恵会医科大学附属柏病院 松戸リハビリテーション病院		
	【実習スケジュール】		
	日程	内容	方法
	1	全体オリエンテーション	・実習の目的を理解し、臨地実習を効果的に行うための準備をする。
	2	実習オリエンテーション	
	3	フロアオリエンテーション	
	4	実習準備	
5 1 3	病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定 看護実践	・患者を1名受け持ち実習する。 ・健康障害にある対象を理解し、対象の願いを捉えた上で日々の状態や変化に応じた看護を実践する。 ・カンファレンス(中間・最終)を通して学びを共有しその後の看護実践に活かす。	臨地
1 4 1 5	再構築	・実習で得た看護の経験を振り返り、グループワークによって知の共有と看護の理解を深める。 ・自己の成長を俯瞰するとともに実習で獲得した価値ある知と課題を明確する。	学内
1 6			
使用テキスト	基礎看護技術ⅠⅡ・臨床看護総論(医学書院)		
学習を支える情報	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要綱を熟読し、自らのビジョン・ゴールに向けて具体的に戦略を立てて実習に臨みましょう。 2. 基本技術Ⅱで学習した患者のねがいの捉え方、日々変化する患者への看護の考え方を活かして実習に臨みましょう。 3. この実習は疾患や治療の理解も必要になります。これまで習得してきた知識を活かし、疑問点や課題を明確にし、日々解決していきましょう。 4. 臨地での実習終了後、自己の看護実践を俯瞰し、そこから得た学びを他者に伝えることで学びが広がり深まります。再構築や発表を充実させましょう。 5. この実習は今後行われる領域別実習の基盤となります。実習での学び方や自己の学習の仕方にも身につけていきましょう。 <p><参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 第3版(医学書院) ・看護がみえる1 基礎看護技術 ・看護がみえる2 臨床看護技術 ・看護がみえる3 フィジカルアセスメント(メディックメディア) ・専門基礎分野や専門分野のテキスト(解剖生理学・薬理学・成人看護学・老年看護学など) 		
評価概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成績評価を受ける資格は、所定時間数の6分の5以上の出席となります。 2. 実習評価は、実習要綱のルーブリックにより総合的に行います。 3. 提出物の提出期限が守れない場合は、評価対象とならない。 		